

〈真備地区〉

耐震性貯水槽 給水操作マニュアル

- 1 器具庫について p.2
- 2 給水口から水を出す p.4
- 3 応急給水栓の組み立て p.8
- 4 手押しポンプの準備～応急給水栓へつなぐ p.12
- 5 手押しポンプを動かす p.16
- 6 水質検査をする 〈残留塩素測定器の使い方〉 p.17
- 7 後片付け p.20



耐震性貯水槽の使い方
がわかるよ！



1 器具庫について



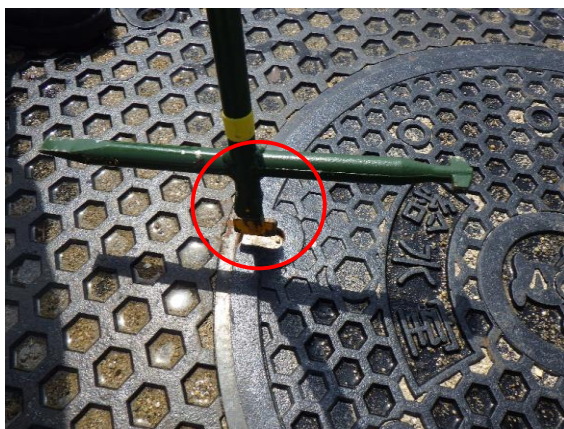
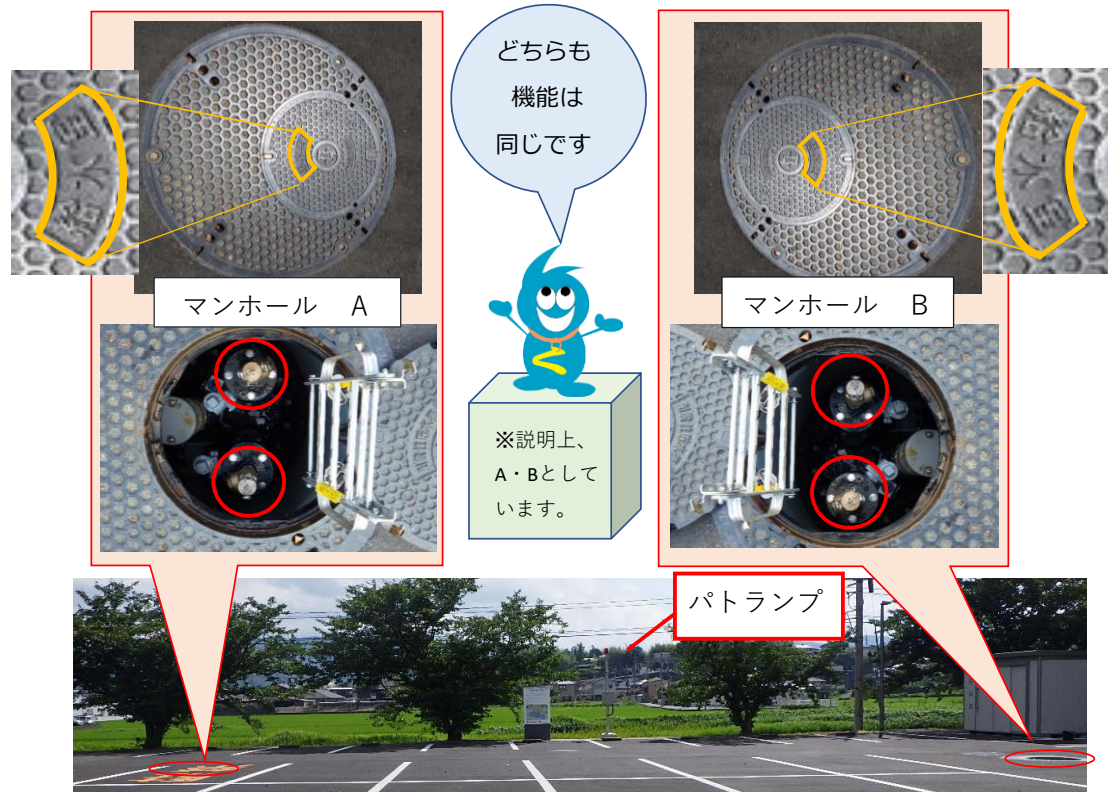
器具庫 内容リスト

	備品名	数量		備考	
	1	給水バック	約10,000	枚	1箱（6Lが200枚入り）
	2	手動ポンプ	4	台	
	3	ホース（緑+黄テープ付）	4	本	
	4	ホース（黄+青、黄+赤テープ付）	4	本	手動ポンプから応急給水栓をつなぐホース
	5	応急給水栓	4	セット	
	6	バルブキー	1	本	
	7	簡易タープ	4	セット	
	8	簡易タープ用ウエイト	16	個	※1タープに4個使用
	9	マグネットライト	4	個	
	10	ランタンライト	3	個	
	11	カラーコーン	20	個	
	12	カラーコーン用ウエイト	10	個	
	13	コーンバー	10	本	
	14	パイプ丸イス	10	個	
	15	ブルーシート	2	枚	
	16	バケツ	2	個	
	17	軍手	約10	双	
	18	折りたたみテーブル	2	脚	
	19	メガホン	1	個	
	20	人工芝マット	16	枚	
	21	雑巾	約10	枚	
	22	呼び水	6	本	2Lペットボトル
	23	ほうき・ちりとりセット	1	セット	
備品箱	24	ハサミ	1	個	
	25	養生テープ	1	個	
	26	カッターナイフ	1	本	
	27	救急セット	1	式	
	28	ゴミ袋 70L（10枚入り）	約2	袋	
	29	マジックペン	1	本	
	30	ドライバー	2	本	※ポンプの呼び水作業に使用
	31	呼び水用じょうご	2	個	※ポンプの呼び水作業に使用
	32	手動ポンプ 替えゴムパッキン	1	個	
	33	パトランプ用 鍵	1	個	※備品箱にテープで貼りつけている
	34	残留塩素測定器	1	セット	

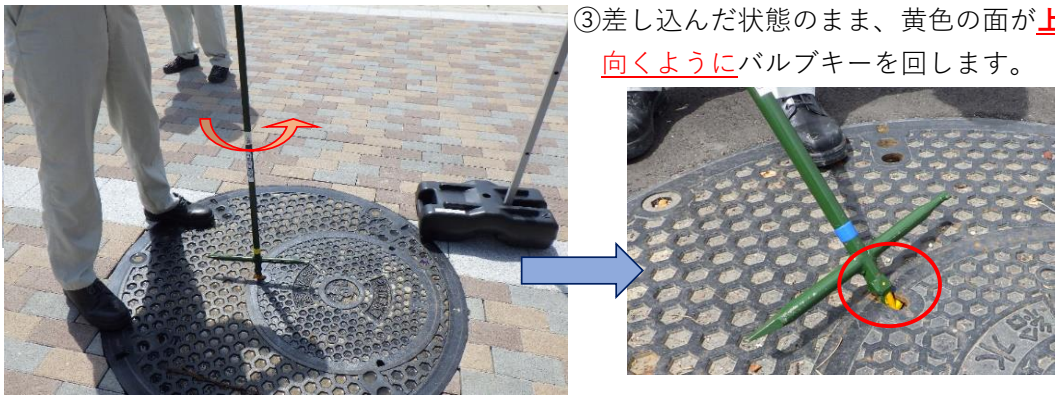
（真備）

2 給水口から水を出す

すべての給水口から水を出します（給水室と書かれたマンホールです）。




③差し込んだ状態のまま、黄色の面が上を向くようにバルブキーを回します。



④バルブキーを一度自分側に倒します。
(マンホール蓋を少し浮かすイメージ)

⑤上に持ち上げ横にスライドさせます。



金具で留まっているので、この部分を支点にして動かす

《落下防止ステンレス蓋の開け方》

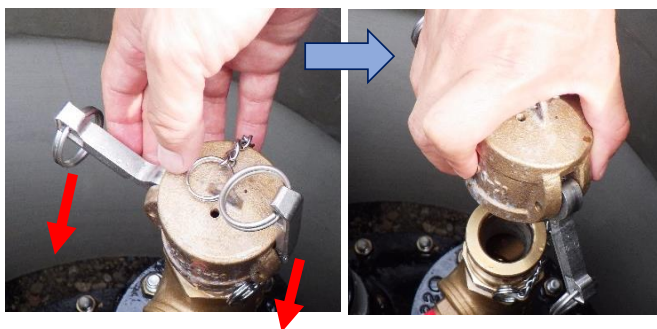


①赤枠部分を動かします。

②2本を掴み、矢印の方向に動かします。

③ロックが外れたら、上に上げます

《水の出し方》



金具を外します。



- ②バルブキーを用意します。
(青丸部分を使います。)
- ③バルブキーの青丸部分を左図の赤丸に差します。



- ④給水口バルブを反時計まわりに開けます。



- ※出し始めは勢いよく出る可能性がある
あるのでゆっくり回します。
徐々に弱まります。



- ※しばらくすると、
水は自然にとまります。



⑤もう1つの給水口も今までの手順通りに水を出します。

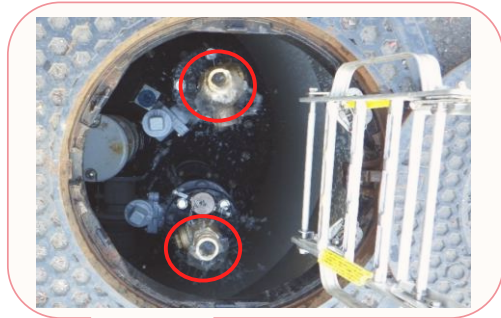


※両方から水が出ている様子
⑥マンホールBも同様の手順で開け、給水口から水を出します。

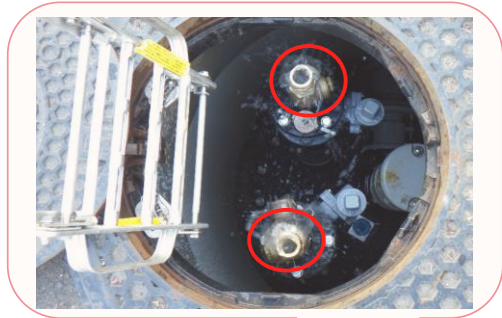
完成

すべて開けたのちに、使用する給水口だけを全開にする。ほかはすべて締める。

〈マンホールA〉



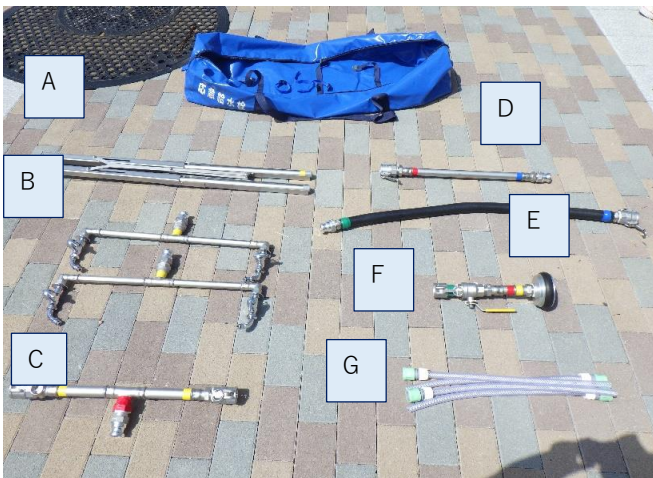
〈マンホールB〉



3 応急給水栓の組み立て



左写真の応急給水栓を組み立てます。



① 青い袋の中身をすべて出します。

※ 連結部にそれぞれ色テープが巻いています。同じ色同士を接続していきます。

※ なるべく清潔な場所で広げるようにしてください。



② Aを広げます。



Aの上にBを置く



間を渡すように
Cでつなぐ

③順番につないでいきます。
黄色と黄色を合わせます。
※赤色の接続部が横を向くように、
つないでください。



接続部のつなぎ方

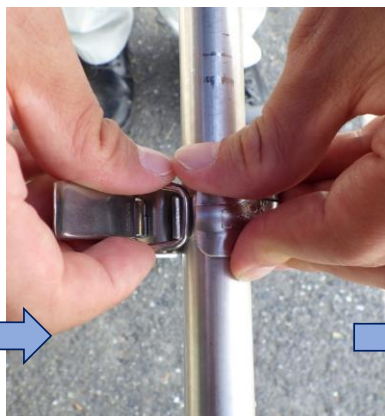
留め具を写真のように
折り返して固定します。

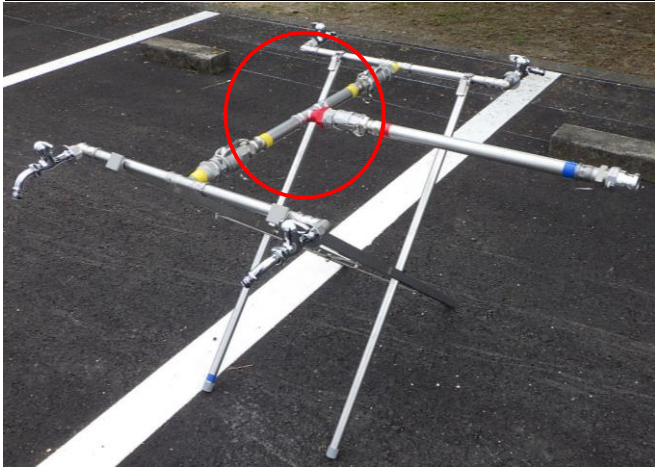
**以下、この方法で接続部を
つないでいきます。**



※ここで一度 ○ 4箇所
蛇口の向きを確認してください。

④写真のように、金具を留めてく
ださい。
(片側のみ。 ○ 2箇所)

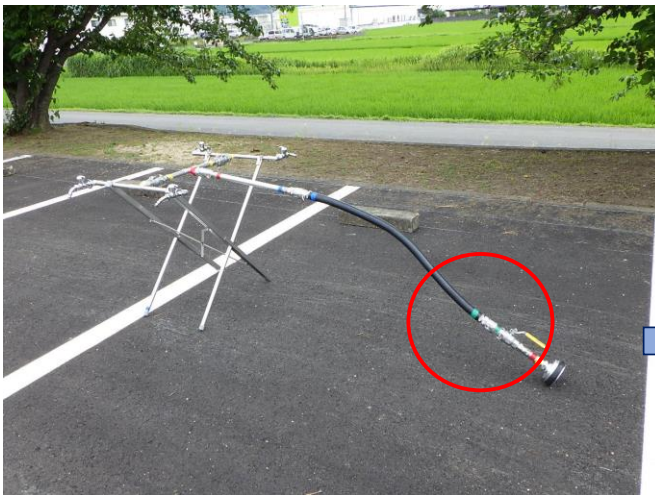




⑤Dをつなぎます。(赤色+赤色)



⑥Eをつなぎます。(青色+青色)



⑦Fをつなぎます。(緑色+緑色)
※このときは写真のように
OFFにしておく





⑧Gを蛇口4箇所に取り付けます。
(カチッと音がするまで奥まで
差し込む)

完 成



4 手動ポンプの準備～応急給水栓へつなぐ

《準備するもの》

●手動ポンプ



●ホース（緑+黄がついている）

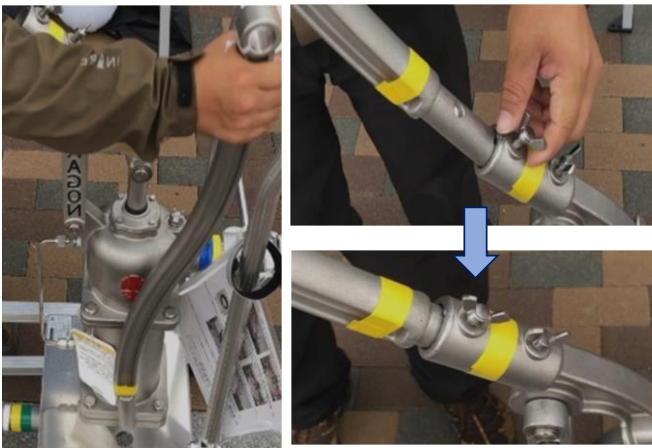


●水3リットル（ペットボトル約1.5本分）



※器具庫に用意ありますが、普通の水です。

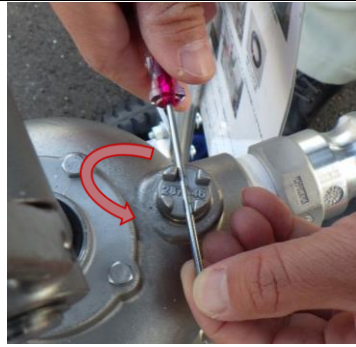
●ドライバー、じょうご（備品箱）



①手動ポンプにハンドルを取り付けます。

蝶ボルトを緩め、ハンドルを差したのちに、もう一度締めなおして固定する。





②呼び水を入れます。ドライバーを使って蓋を開けます。

(蓋をなくさないように)

(※) 呼び水とは

空気が入っていると、水が送り出せません。ポンプ内を水で満たして使用できるようにします。



※ハンドルは1番上にしておくこと。

(可能であれば、押さえて)



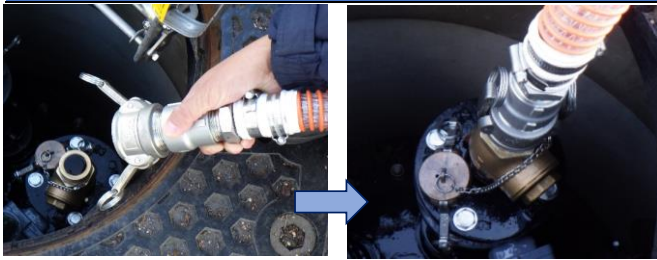
③ハンドルを1番上にした状態で
じょうごを差して、水を入れます。



※青黄色の箇所から水が出るまで
入れます。

※目安：約3リットルほど入れると、
水が出てきます。

④取っておいた蓋を締めます。



⑤給水口とホースをつなぎます。
 (テープなし同士)
 ※留め具でしっかり固定



⑥つないだホースと手動ポンプをつなぎます。(緑黄色+緑黄色)

これまでと同様に接続部を固定する



ここまでの様子



コーンを使用するなど、周りに注意を促すよう、気を付けてください。



⑦手動ポンプのハンドルを上下に動かして、水を出します。

15回ほど動かすと、勢いよく水が出てきます。

※勢いよく水が出てから、5～6回動かしておいてください。

呼び水 完了



⑧手動ポンプにホースをつなぎます。
(黄青色+黄青色)



⑨つないだホースと応急給水栓をつなぎます。(黄赤色+黄赤色)



完成



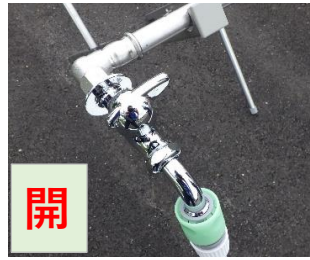
OFF



ON

水を出すときは、ONの状態にしてください。

5 手動ポンプを動かす



① 応急給水栓の蛇口を開けます。

ガスの元栓と反対です！



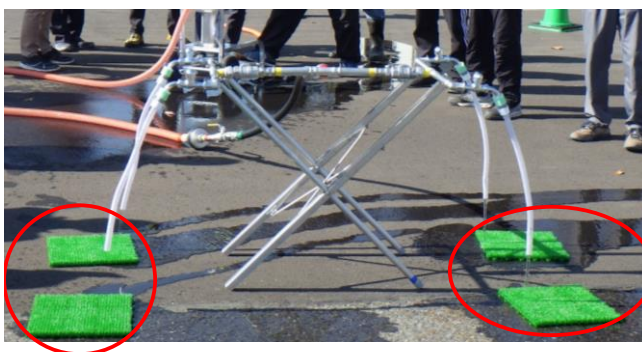
② 手動ポンプのハンドルを上下に動かして、水を送り出します。水がきれいになるまでポンプを動かし、水を出し続けてください。

※ 足で台車を押さえて行くと、安定します。



③ 給水パックやバケツ等をセットして、水を貯める準備をしてください。

ホースの先を奥まで差し込む



※ 器具庫にマットを用意しています。状況に合わせて使用してください。

6 水質検査をする (残留塩素測定器の使い方)

《準備するもの》

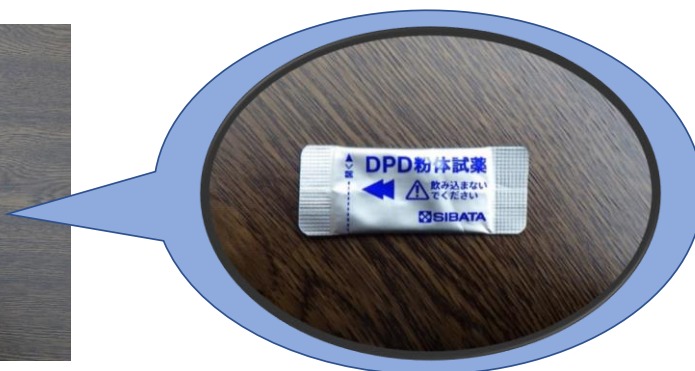
●樹脂比色板



●角形試験管 シリコンキャップ付き



●DPD粉体試薬



① 2本の角形試験管にポンプから汲んだ水を約8分目まで入れます。



② シリコンキャップを取り付け、右側と左側の試験管ポケットに差し込みます。



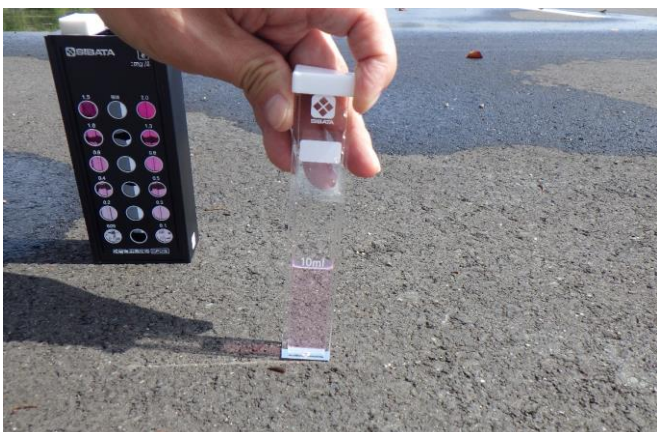
③残りの1本の角形試験管を何度か水で洗います。
その後、10mlの目盛まで水を入れます。



④DPD粉体試薬の袋を開けます。
※手で開けられます。



⑤【手順③】の角形試験管に
DPD粉体試薬を1袋入れます。



⑥シリコンキャップを取り付けて、
よく混ぜてください。

※粉体試薬の一部が溶け残っていても
測定には影響ありません。

※残留塩素に反応すると、
ピンク色になります。



⑦【手順⑥】の角形試験管を約5秒後に中央のポケットに入れます。

！注意！

時間が経つと、発色が濃くなります。粉体試薬を投入後、約1分以内で測定してください。



⑧直射日光の当たらない明るい場所で確認します。中央の発色が両端の比色板のうち、近い色の数値を読み取ります。

正常な飲料用水道水の値
0.1 mg/L以上

⑨測定後、角形試験管は早めに水で洗い流します。
※着色の恐れあり

《数値の読み方》

この色に近い濃さの数値を読む
※この3つは同じ濃さ



読み取る数値



■手動ポンプの水抜き

- ・ハンドルを下にした状態で、調整リングを外します。

赤いペイント部分に切れ目があります。

- ・調整リングが外れると、ハンドルがさらに上まで上がり水が抜けやすくなるので、**ポンプを傾けて、水を全部出し切ります。**



※手動ポンプに水抜きの説明書を付けています。そちらも参考にしてください。



**※ 応急給水栓、ホース等
水をしっかり抜きます。**